

平成21年度 国史跡 永納山城跡現地説明会資料

平成21年12月5日（土）
西条市教育委員会

1 遺跡の概要

(1) 史跡概要（史跡指定：平成17年7月14日）

ア 永納山城とは？

永納山城は、日本で最も古い城である「古代山城」の一つです。古代山城は、教科書にも出てくる「白村江の会戦（はくすきのえ（はくそんこう）663年）」前後の国際的緊張関係の下、築かれた城です。『日本書紀』には古代山城に関する記載が見られ、白村江での敗戦後、百済の亡命貴族の指揮の下に築城された、とあります。このような文献に名の出る山城は、築城年代のはっきりしているものが多いのですが、永納山城を含め文献に名のない山城の時期については、いまだ細かい点で意見が分かれています。しかし、近年の各地の山城の調査成果からおおよそ7世紀の後半～8世紀の前半に築かれたということは間違いないと考えられています。

イ 永納山城の大きさは？

史跡指定面積はどのくらい？ 約40ha（これは甲子園球場約10個分にあたります。）
城壁の長さは？ 推定部分も含め約2.5kmです。
標高は？ 最も高い頂上で標高132.4mです。

2 今回調査の内容

(1) 調査の目的は？

今回の調査は、内部施設（倉庫等）の存在を確認するための調査です。昨年度の調査で遺構の存在する可能性のある地層を検出したことから、今年度はこの遺跡南東部を集中的に調査しています。

(2) 調査の結果は？

現在のところ、次の3点が大きな成果としてあがっています。

- ①内部施設に係る可能性の高い遺構の確認（1トレンチ・2トレンチ）
- ②遺跡の内容を明らかにしていく上で、重要な遺物の出土
 - ・永納山城築城から使用の時期を示す可能性の高い土器（須恵器・赤色塗彩土師器）
 - ・城内での生産活動を示す可能性の高い遺物（鉄滓）の出土（主に1トレンチ・2トレンチ）
- ③何らかの遺構面の可能性の高い土層が広範囲に広がることを確認（1～3トレンチ）

これらの成果はまだ断片的な可能性の段階であり、ただちに永納山城の当時の姿が浮かび上がったという訳ではありません。今後、追跡調査によりそれぞれの関連性を明らかにし、さらなる検討を加えていく必要がありますが、今回の調査で内部の状況について多くの手がかりをつかんだことはまぎれもない事実であり、調査は大きく前進したといえます。

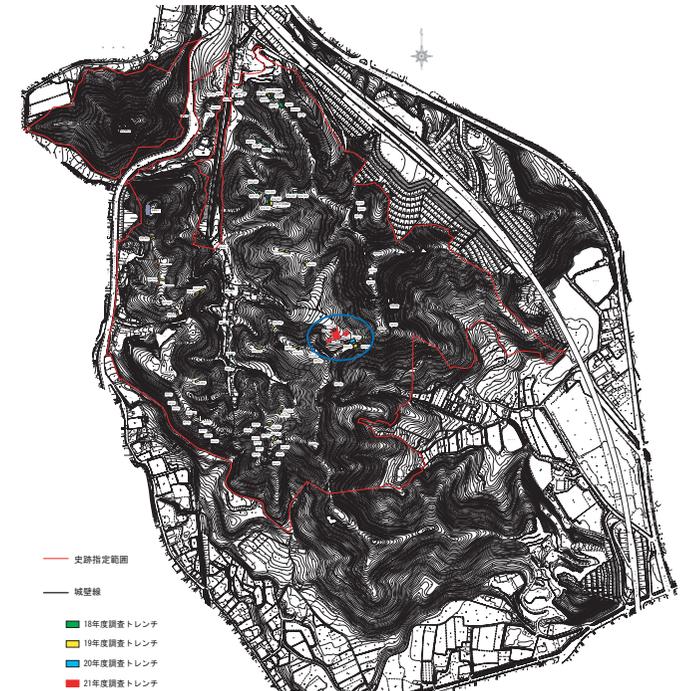
(3) 今後の課題と調査

ア 土層堆積状況の確認

すでに述べたように、3つのトレンチで検出した暗褐色系の層は遺構面となる可能性が高いと考えられます。しかし、現段階では、それぞれの関係（同じ層であるのか、上下関係があるのか等の対応関係）が明確ではありません。そこで、これらの層の関係をきちんと把握することが第一の課題です。これによって、検出した遺構や出土した遺物のつながりが明らかとなり、遺構の時期を特定できる可能性が高まります（現在調査中）。

イ 遺構の広がり確認

層の対応関係を把握した後は、遺構の平面的な広がりを確認しなければなりません。現段階では検出した遺構がいったい何であるのか不明確ですが、もうすこし範囲を広げて確認することにより、ピットの配列等に規則性を見出すことができるかもしれません。また、その他の遺構についても、内容のはっきりとしたものが検出される可能性があります（来年度調査予定）。



永納山城跡トレンチ配置図（S=1/10000）



H21-1 トレンチ遺構検出状況（北から）

30 基を超えるピットを検出しました。しかし、ピットからはわずかな小土器片が出土したのみのため、これらの時期は不明です。



須恵器 杯蓋



須恵器 杯蓋



赤色塗彩土師器

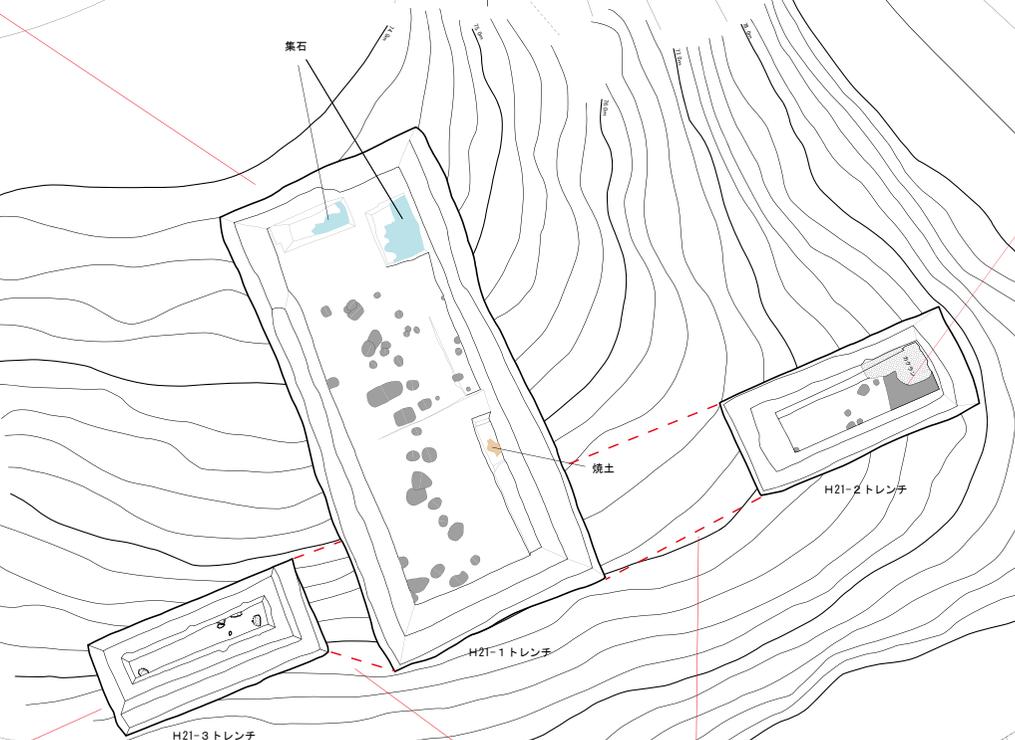
ピット検出面の上の層からは、須恵器や土師器など古代の土器が出土しています。



H21-2 トレンチ遺構検出状況（北から）

永納山城で始めて確認した須恵器を含む遺構です。

* 須恵器は胴部の破片がほとんどであるため、時期については検討が必要です。



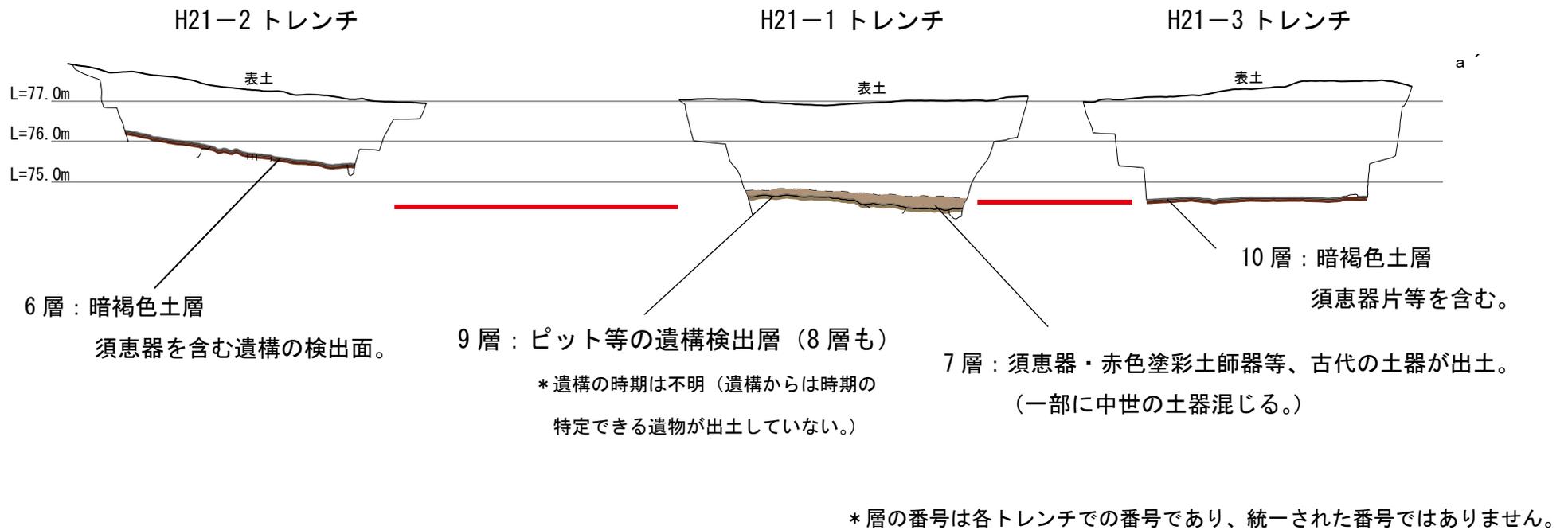
現在拡張調査中



H21-3 トレンチ暗褐色土層検出状況（東から）

2 トレンチ同様に暗褐色の層を検出しました。

この層からは須恵器片が少量出土しています。



————— : 各トレンチの間をつなぎ、層の堆積状況（前後関係）を把握することが第一の課題です。